

町田市議会議員・良識ある保守主義を目指す

吉田つとむ

納税者主権の政治・リニア新幹線



町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野 2-2-22

☎042-724-2127

2 期連続 1 位 (6 期目)

都市計画審議会での意見

東京都のく多摩部 19 都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」(案)では、小田急多摩線の延伸に関し、その都市計画の方針で一言もなく、町田市の行政も東京都にその要求をこれまでしていませんでした。東京都は、町田市を東京都の構成部分とする意識がどこまでも薄いようですが、都議会ではどんな話になっているのでしょうか。

8 月 18 日の町田市都市計画審議会の会議において、川畑委員(市議会議員)が交通分野でまず問題点を取り上げ、交通ネットワークの中で位置づけるように提起しました。吉田つとむ委員(市議会議員)は、リニア中央新幹線に関して東京名古屋間の整備という記述のみで、橋本駅が設置されることの記述が全くなく、そのことによって町田市エリアなどの影響に何も触れていないことを指摘しました。その他の意見も含めて、中井会長からは、地方分権の視点での町田市から東京都への意見要望の欠如が指摘されました。加えて、町田市が東京都に要望をだすことの必要性が確認され、その実施を求める発言で締めくくられました。



土門拳記念館と美術工芸館

第 3 定例会の一般質問に関して、山形県酒田市が所有する「土門拳記念館」を視察訪問しました。この施設は日本最初(1983 年)の写真専門の美術館であり、個人の写真記念館としては世界でも唯一ものといわれて誕生したものです。出身地に土門拳が全作品(約 7 万点)を寄贈して出来た施設です。作品数が多く、順次公開の方法が取られています。

他方、「町田市フォトサロン」は当初、町田市に関わる写真家の作品展示を主要な目的にしていたのですが、今はその作品は皆無です。住民や団体の作品展示場になっています。その奥行を比較しようがありませんが、「土門拳記念館」の施設と作品を見ると、「歴史」の重みが違うという感動をまず覚えました。



(庭園や館内には、友人の協力作品がある)

「土門拳記念館」自体に、友人のイサム・ノグチ氏の作品や、勅使河原宏氏の作品が複数個所に協力展示され、「土門拳」の人柄を示す雰囲気が出されていました。町田市が今後、この種の施設(美術工芸館)を造るに際し、自身の街や人の歴史性が世界に(少なくとも、日本全土に)通じる普遍性を持つかどうかという点につき、判断すべきことが欠かせないと感じるものです。

★ 無所属で活動・市議会は保守連合 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E 103-13 吉田つとむ(市議会議員)

町田市議会議員・良識ある保守主義を目指す

吉田つとむ

セミナー主催・インターンシップ主宰



楽しい社会体験プログラム

携帯QRコード
でブログ閲覧

研修生レポート ④佐藤小百合

国際版画美術館の常設展では、東海道五十三次関連の「旅と人を描く——五つの『五十三次』」が開催されています。これには、歌川広重の傑作である「東海道五十三次」（保永堂版）を中心に行書東海道、さらには幕末に作られた「東海道五十三驛」といった作品などが展示されていました。一般的に知られている広重の東海道五十三次は保永堂版と呼ばれているもので、行書東海道というもうひとつの東海道五十三次があります。同じ人物が描いたものですが、背景や構図などが全く違うのには驚きました。また、幕末にも東海道の絵が描かれており、版画でとても細かく描かれていて、その技術力の高さに関心しました。他にも木版やリトグラフなどの紹介や版画の原物模型なども置かれており、実際に触

銅版画の小ささに驚き、浮世絵の美しい色彩に胸を馳せ、充実した時間を過ごしました。
(昭和女子大3年生 佐藤小百合 第34期)

研修生レポート ⑤渡邊 慧

(市内文化施設を見学したレポートの抄文)

私が最も興味を持ったのは、資料館の「風刺漫画に見る明治」という企画展です。以前は風刺画に対して、パッと見て誰にでもわかるところが面白いという印象を持っていました。しかし、明治10年代に登場した『团团珍聞（まるまるちんぶん）』『驥尾団子（きびだんご）』という風刺漫画雑誌を見ると、どうやら現代の風刺漫画とは異なるようでした。これらの雑誌は、庶民感覚に寄り添いつつも政治や社会の内面を鋭く風刺し、笑いを読者に提供するという狙いをしていました。政府や警察を煙に巻くための仕掛けがふんだんに隠されていたため、見た瞬間に楽しめることはありません。しかし、だからこそ読者は、謎解きのようにじっくりと考え、楽しむことができたものと思います。実際、私が展示会で風刺漫画を少し見た程度では、それを楽しむことはできませんでした。学芸員の方のお話を聞き、当時背景にあった自由民権運動や政治、社会、世相を知ったうえで作者の隠した仕掛けを解き、やっと理解し、感心し、楽しむことができたわけです。技術の発達によって便利になった現代では、わからないことがあれば誰もがインターネットですぐに調べられるようになりました。しかし、当時の読者のように、自分自身で考えて楽しむということもまた面白いのではないのでしょうか。
(フェリス学院大学3年生

渡邊 慧（さとい）第34期研修生)

左が渡邊慧さん、右が佐藤小百合さん



れて分かりやすく学ぶことができます。

版画は小学生の頃に図工の授業で習ったことがあります。学校で習った木版以外にも様々な版画技術があり、さらに細かくどういった作品に向いているかなどの紹介もされており、版画の奥深さを改めて知るに至りました。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ どうぞ、町田市政や議会に関するご要望や、ご意見をお気軽にお寄せ下さい。

Mail : yoshidaben@gmail.com mobile: yoshidaben@docomo.ne.jp